



GLOBAL-DINING GZ

決算説明会資料

2022年12月期

株式会社グローバルダイニング（東証スタンダード 7625）

2023/2/16

2022年12月期通期 決算報告

I. 業績サマリー

• 損益計算書の概要(連結)	4
• 会社別実績概要	5
• 会社別実績 営業利益(コスト)増減要因	6
• 貸借対照表の概要(連結)	7
• キャッシュ・フローの概要(連結)	8
• 過去5年間 売上高等主要数値の推移(連結)	9

II. 事業計画サマリー

• 2023年12月期 通期計画(連結)	11
----------------------	----

III. 2022年の概況

• 国内売上高前年対比率 月次推移	13
• 2022年の出退店	14
• 2022年の振り返り	15
• 国内業態別業績	16
• 海外(米国)店舗別業績	17

IV. 2023年の取り組み

• 企業理念の改定	19
• 2023年の取り組み(国内)	20
• 2023年の取り組み(米国)	21
• 米国TOPICS	22

参考資料

• 展開コンセプト(連結)	24
• 国内コンセプト別 売上高の推移	25
• 国内コンセプト別 営業利益率の推移	26
• 国内客数と客単価の前年同期比推移	27
• 損益計算書概要 – 国内	28
• 損益計算書概要 – 連結子会社(米国)	29
• 2022年12月期通期 赤字店舗一覧	30

I. 業績サマリー

損益計算書の概要 (連結)

連結	2022年12月期 通期					
	実績		計画値		差異	
売上高	9,558	100.0%	8,102	100.0%	1,456	18.0%
営業利益	224	2.4%	106	1.3%	118	111.9%
経常利益	297	3.1%	156	1.9%	140	89.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	222	2.3%	141	1.7%	80	56.9%
1株当たり 当期純利益	21円46銭		13円68銭			

2021年12月期 通期					
実績		差異			
9,573	100.0%	▲15	▲0.2%		
727	7.6%	▲502	▲69.1%		
1,066	11.1%	▲768	▲72.1%		
1,046	10.9%	▲823	▲78.7%		
101円25銭					

(単位：百万円)

期中平均株数 (単位：千株)

為替レート

2022/12/31: 10,364

USD/JPY 132.70 (計画値：113.00)

2021/12/31: 10,331

USD/JPY 115.02

●売上高

[国内] 計画対比：+13.5% 前年対比：▲5.3%

前年対比では減収となったが、2022年10月の入国制限緩和による訪日外国人の増加等で計画値を大きく上回った。

[米国] 計画対比：+17.9% 前年対比：+8.7% ※USドルベース

前期の一時休業の影響、屋外営業の継続やナイトクラブ営業等の好調により、計画対比・前年対比で増収。

●コスト

[国内] 電気代・ガス代の増加、採用費の増加、店舗家賃の増加等により前年対比で悪化。

[米国] DJ・ライブミュージック関連費用の増加、本部スタッフの増加等により前年対比で悪化。

●その他

[国内] 商業施設店舗における新型コロナウイルス感染拡大防止協力金の支給により「協力金収入(営業外収益)」83.0百万円を計上。

円安ドル高の影響により、外貨建借入金(USドル)の評価替えて「為替差損(営業外費用)」21.2百万円を計上。

一部店舗の業績不振と閉店決定により、店舗固定資産の「減損損失(特別損失)」166.4百万円を計上。

繰延税金資産(将来の支払税金の減額)の回収可能性を見込み、法人税等調整額108.1百万円を計上。

会社別実績概要

国内	2022年12月期 通期					
	実績		計画値		差異	
売上高	7,542	100.0%	6,645	100.0%	896	13.5%
営業利益	137	1.8%	33	0.5%	103	307.7%
経常利益	201	2.7%	84	1.3%	117	138.9%
当期純利益	126	1.7%	69	1.0%	57	82.6%

2021年12月期 通期			
実績		差異	
7,966	100.0%	▲424	▲5.3%
593	7.5%	▲456	▲76.9%
822	10.3%	▲621	▲75.5%
668	8.4%	▲542	▲81.1%

(単位：百万円)

米国	2022年12月期 通期					
	実績		計画値		差異	
売上高	15,191	100.0%	12,886	100.0%	2,305	17.9%
営業利益	660	4.3%	641	5.0%	19	3.0%
経常利益	725	4.8%	641	5.0%	84	13.2%
当期純利益	722	4.8%	641	5.0%	81	12.7%

2021年12月期 通期			
実績		差異	
13,970	100.0%	1,220	8.7%
1,161	8.3%	▲501	▲43.2%
2,119	15.2%	▲1,393	▲65.8%
3,280	23.5%	▲2,557	▲78.0%

(単位：千USドル)

参考（当時の為替レートでの日本円換算）

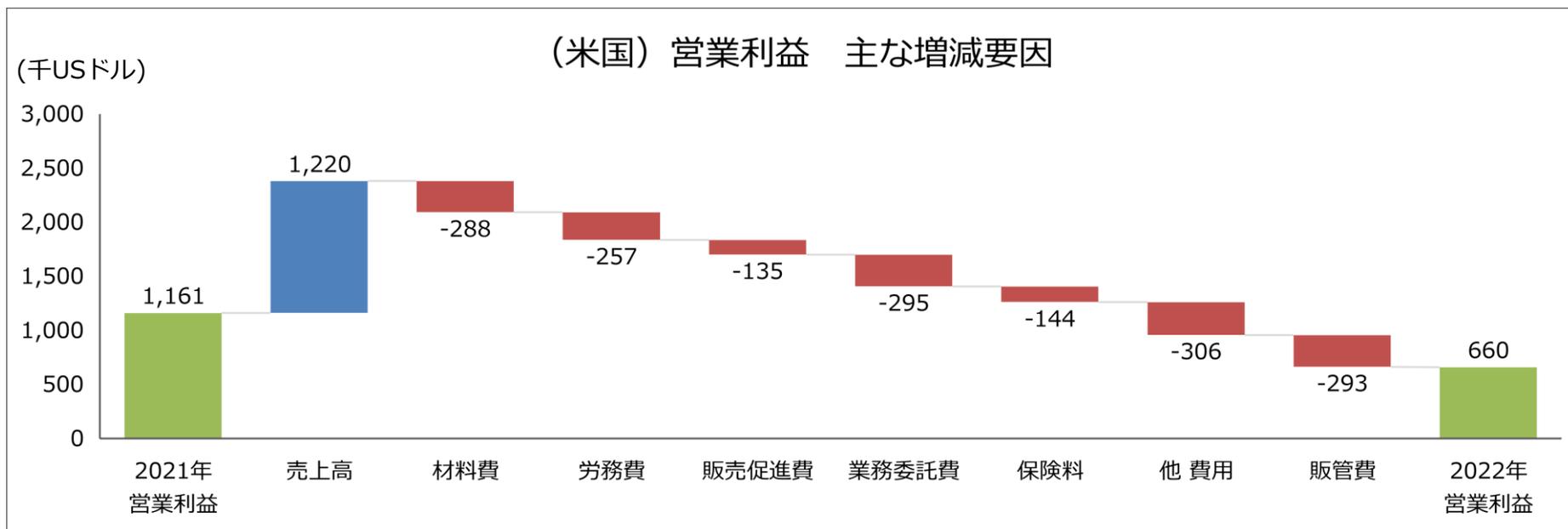
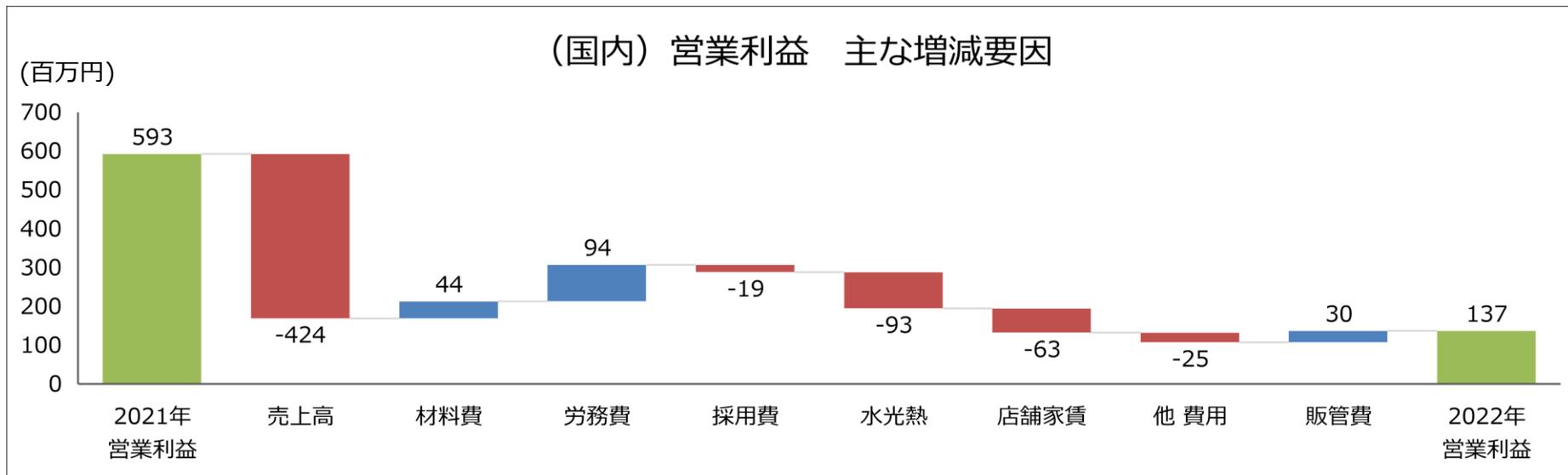
米国	2022年12月期 通期					
	実績		計画値		差異	
売上高	2,015	100.0%	1,456	100.0%	559	38.4%
営業利益	87	4.3%	72	5.0%	15	20.9%
経常利益	96	4.8%	72	5.0%	23	33.0%
当期純利益	95	4.8%	72	5.0%	23	32.3%

2021年12月期 通期			
実績		差異	
1,606	100.0%	408	25.5%
133	8.3%	▲46	▲34.4%
243	15.2%	▲147	▲60.5%
377	23.5%	▲281	▲74.6%

(単位：百万円)

※上記は連結修正前の会社別数値です。

会社別実績 営業利益(コスト)増減要因



貸借対照表の概要 (連結)

	2022年12月期		2021年12月期		増減	
	通期		通期			
流動資産	1,840	25.4%	2,475	32.2%	▲634	▲25.6%
現預金	1,108		1,850		▲742	
売掛金	384		300		83	
原材料及び貯蔵品	169		178		▲8	
商品及び製品	10		14		▲3	
前払費用	139		117		21	
その他	28		13		15	
固定資産	5,397	74.6%	5,209	67.8%	188	3.6%
有形固定資産	4,215	58.2%	4,130	53.8%	84	2.0%
建物・構築物	1,124		1,245		▲121	
工具器具	204		192		12	
土地	2,785		2,669		116	
建設仮勘定	90		14		76	
リース資産	9		9		0	
無形固定資産	1	0.0%	1	0.0%	0	▲6.9%
投資その他の資産	1,181	16.3%	1,077	14.0%	104	9.7%
投資有価証券	23		17		5	
長期前払費用	17		18		▲1	
繰延税金資産(固)	72		0		72	
差入保証金	1,067		1,041		26	
総資産	7,238	100.0%	7,685	100.0%	▲446	▲5.8%

	2022年12月期		2021年12月期		増減	
	通期		通期			
負債合計	3,635	50.2%	4,541	59.1%	▲906	▲19.9%
流動負債	1,777	24.6%	2,229	29.0%	▲452	▲20.3%
買掛金	296		288		8	
短期借入金	0		208		▲208	
1年内返済予定長期借入金	593		384		209	
未払金	94		133		▲38	
未払費用	507		595		▲88	
預り金	160		240		▲80	
未払消費税	43		296		▲253	
その他	81		82		▲1	
固定負債	1,858	25.7%	2,312	30.1%	▲453	▲19.6%
長期借入金	1,177		1,580		▲403	
資産除去債務	570		571		▲1	
その他	111		160		▲49	
純資産	3,603	49.8%	3,143	40.9%	459	14.6%
資本金	43		42		1	
資本剰余金	2,143		2,141		2	
利益剰余金	1,269		1,059		209	
為替換算調整勘定	121		▲116		237	
その他	25		15		10	
負債・純資産合計	7,238	100.0%	7,685	100.0%	▲446	▲5.8%

(単位：百万円)

[総資産]

現預金の営業以外の主な収支は、借入返済で423.1百万円の減少、消費税の納付で592.1百万円の減少。

建物・構築物、工具器具は国内の改装・新規出店、米国子会社の急激な為替変動等により増加したものの、減価償却と減損損失の影響で減少。

土地は、為替変動により米国分が増加。建設仮勘定は、国内の新規出店により減少したが、米国の新規出店準備等により増加。

繰延税金資産(固)は、国内2期連続黒字により、来期も黒字見通しのため、繰越欠損金の控除等を見込み増加。

[負債・純資産]

短期借入金は、通常返済による減少と長期借換による減少で残高ゼロとなった。

長期借入金(1年内返済予定含む)は、通常返済による減少以外では、短期借入金の長期借換で増加。

未払消費税は、消費税納付により大きく減少。

純資産は、当期純利益による利益剰余金増加の他、急激な為替変動により米国の連結手続きにおいて為替換算調整勘定が大幅に増加。

キャッシュ・フローの概要（連結）

	2022年12月期 通期	2021年12月期 通期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲52	1,417	▲1,469
税金等調整前当期純利益	127	1,072	▲944
減価償却費	208	183	24
減損損失	166	142	23
債務免除益	0	▲148	148
受取還付金	0	▲90	90
協力金収入	▲83	▲235	152
売上債権の増減額	▲82	▲88	6
たな卸資産の増減額	16	▲60	76
仕入債務の増減額	6	58	▲52
未払費用増減額	▲98	117	▲215
未払消費税増減額	▲255	191	▲447
預り金増減額	▲80	26	▲107
還付金の受取額	0	90	▲90
協力金の受取額	83	235	▲152
法人税等の支払額	▲44	▲54	10
その他	▲16	▲22	9
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲299	▲248	▲50
有形固定資産の取得による支出	▲268	▲314	45
資産除去債務の履行による支出	0	▲43	43
保証金の回収による収入	0	135	▲135
保証金の差入による支出	▲29	▲26	▲3
その他	▲2	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲444	355	▲799
短期借入金の純増減額	▲208	▲521	313
長期借入れによる収入	200	1,132	▲932
長期借入金の返済による支出	▲415	▲250	▲164
その他	▲21	▲6	▲16
現金及び現金同等物に係る換算差額	52	5	46
現金及び現金同等物の増減額	▲742	1,529	▲2,272
現金及び現金同等物の期首残高	1,850	321	1,529
現金及び現金同等物の期末残高	1,108	1,850	▲742

●営業活動によるキャッシュフロー

営業黒字となったが、消費税納付の影響が大きく、前年比▲1,469百万円の52百万円のキャッシュアウト。

●投資活動によるキャッシュフロー

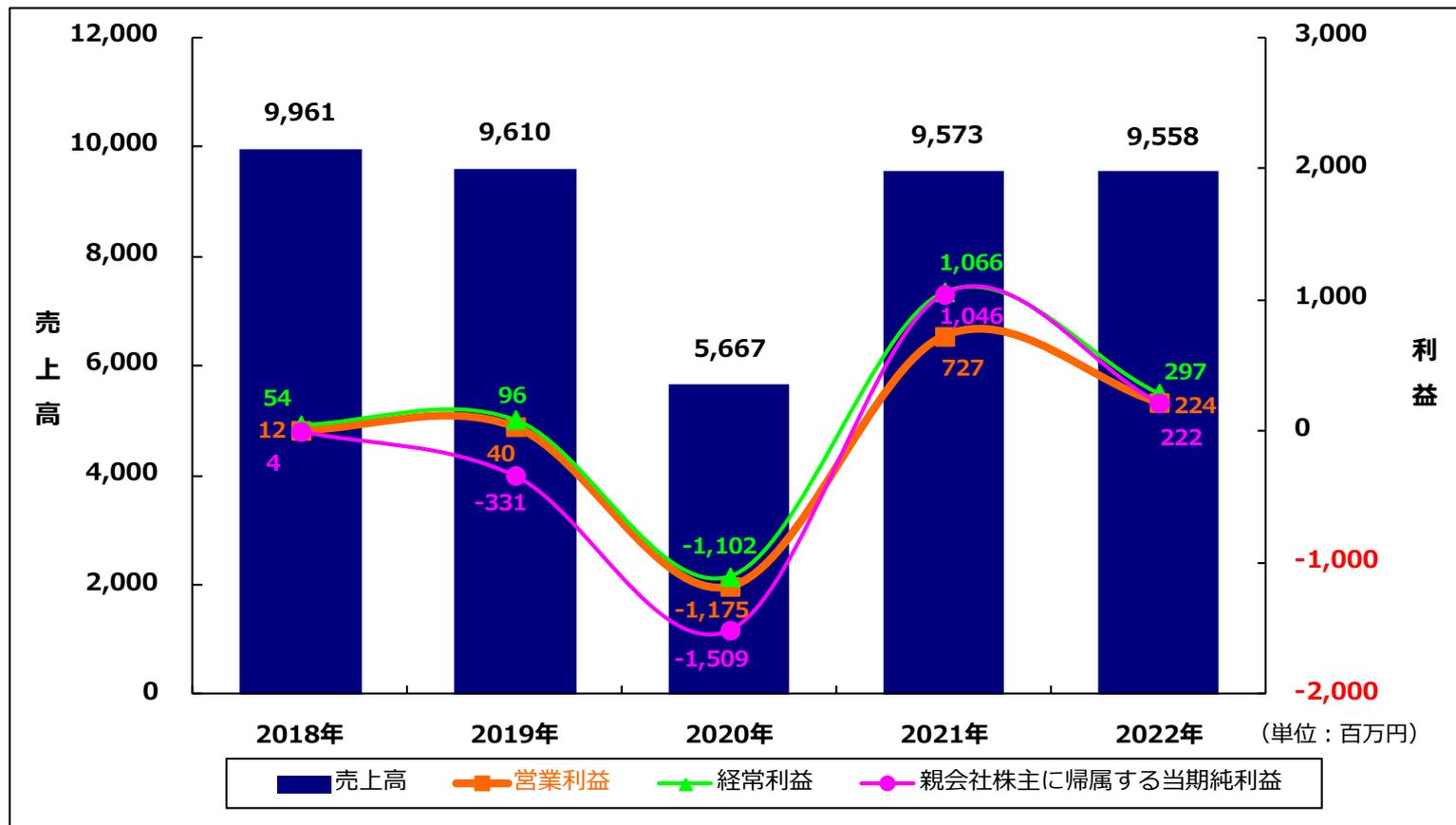
新規・改装出店や設備投資、米国の新規出店に伴う保証金差入等により、299百万円のキャッシュアウト。

●財務活動によるキャッシュフロー

短期借入金の長期借換があったが、通常の借入返済等で、444百万円のキャッシュアウト。

現金及び現金同等物は、742百万円のキャッシュアウトとなり、期末残高は1,108百万円。

過去5年間 売上高等主要数値の推移（連結）



[2020年] 国内・米国ともに新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、売上高・利益ともに大幅減少。

[2021年] 国内売上高は、営業時間短縮等の要請がある中で通常営業(商業施設店舗を除く)を継続したことでコロナ前の水準近くまで回復。米国売上高は、屋外営業の好調や店内営業の再開で大幅に増加し、連結売上高はコロナ前の2019年と同水準の結果となった。連結最終損益は、米国の大規模な経済政策(PPP融資の返済免除、従業員雇用継続税額控除)等により大幅に増加。

[2022年] 国内売上高は、前年対比で減少したものの、2022年10月の入国制限緩和による訪日外国人の増加等で計画を大きく上回った。米国売上高は、屋外営業の継続やナイトクラブ営業等の好調により、前年対比・計画対比ともに増加。国内では電気代・ガス代の増加等でコストの悪化もあったが、米国の業績好調と円安による好影響もあり、連結最終損益は黒字着地。

Ⅱ. 事業計画サマリー

2023年12月期 通期計画（連結）

連結	2023年12月期 通期	
	計画値	
売上高	10,002	100.0%
営業利益	300	3.0%
経常利益	314	3.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	301	3.0%
1株当たり 当期純利益	29円11銭	

想定為替レート USD/JPY 130.00

2022年12月期			
実績値		差異	
9,558	100.0%	444	4.7%
224	2.4%	76	33.8%
297	3.1%	17	5.7%
222	2.3%	79	35.7%
21円46銭			

(単位：百万円)

●売上高

[国内] 2022年 実績比 **+6.2%**

行動制限の緩和、海外からの入国制限緩和など、経済活動の正常化により、2022年実績を上回る見込み。
特に和食業態(権八)におけるインバウンド需要を大きく見込む。

[米国] 2022年 実績比 **+1.0%** ※USドルベース

2021年・2022年の好調要因である屋外営業を大幅縮小のため、店内営業を強化するが、既存店では減収を想定。
2023年中にオープン予定の新店舗（Down town LA）の売り上げを見込み、全店では増収を想定。

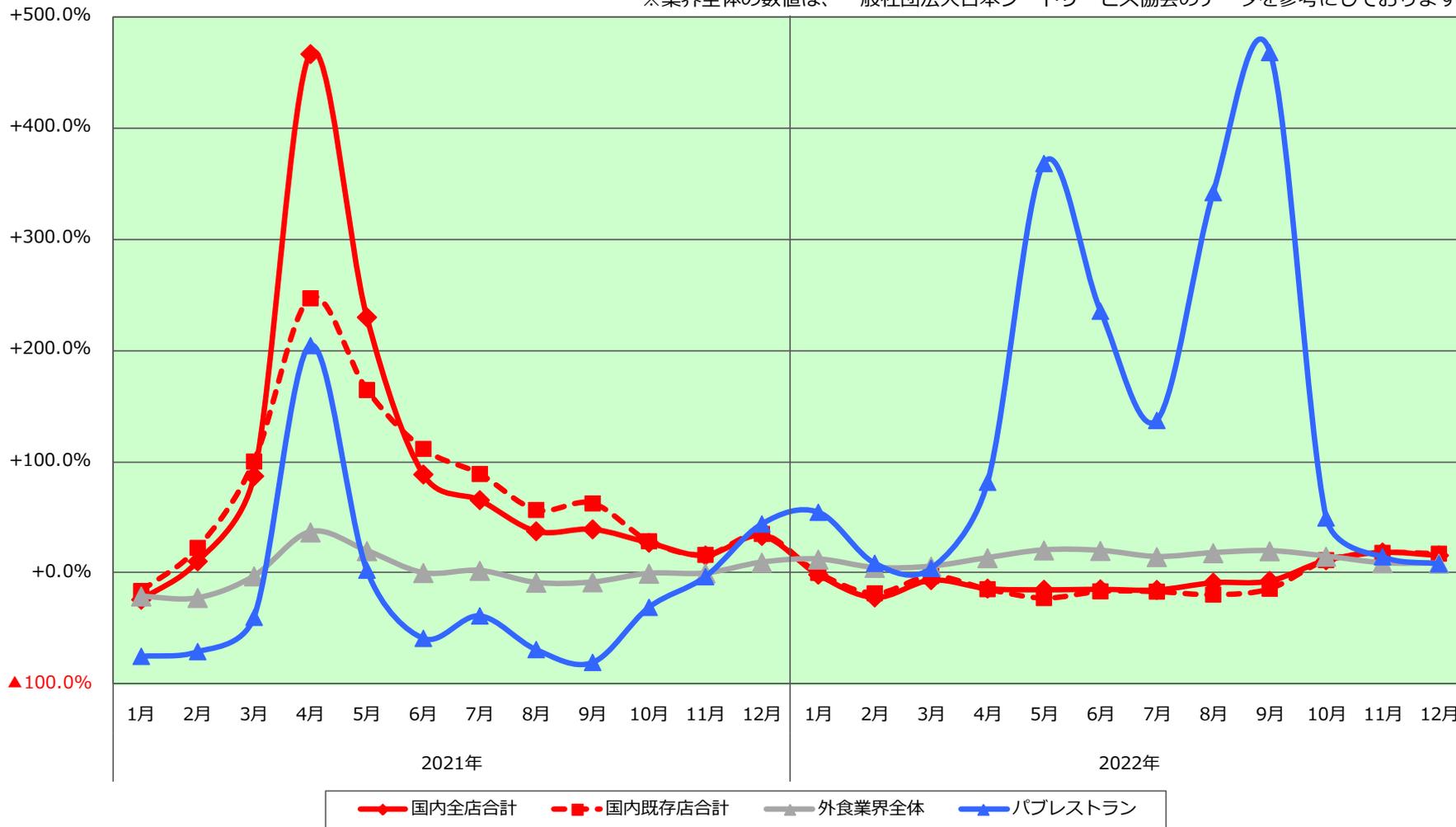
●コスト

国内では労務費の増加、電気代・ガス代の増加等によるコスト悪化もあるが、増収による売上原価率の改善を見込む。
米国では新規出店費用により、売上原価率は悪化する見込み。

Ⅲ. 2022年の概況

(国内) 売上高前年対比率 月次推移

※業界全体の数値は、一般社団法人日本フードサービス協会のデータを参考にしております。



2022年12月期 通期	国内店舗売上高前年比
全店	▲5.3%
既存店	▲9.4%

- 2022年 主な出退店
- 2月 「タコ ファナティコ 渋谷」 オープン
 - 4月 「LB8 (代官山)」 閉店
 - 「ゼスト キャンティーナ 代官山」 オープン
 - 9月 「ステラート サパークラブ」 閉店
 - 「カフェ ラ・ポエム ペントハウス」 オープン

2022年の出退店

● 出店&業態変更

- 2月 1日 『タコ ファナティコ 渋谷』 を東京・渋谷センター街に出店
- 4月22日 『ゼスト キャンティーナ 代官山』 をリニューアルオープン
※『LB8 (ワインバー)』からの業態変更
- 9月 1日 『カフェ ラ・ボエム ペントハウス』 をリニューアルオープン
※『ステラート サパークラブ』からの業態変更

● 閉店

- 4月 3日 『LB8 (ワインバー)』 閉店
- 8月31日 『ステラート サパークラブ』 閉店

出 店 +1

業態変更 +2

閉 店 -2

計 +1

店舗数計 46

※海外2店舗含む



タコファナティコ渋谷

【住所】渋谷区宇田川町32番7号
HULIC & New UDAGAWA
【席数】24席
【業態】手作り生地（グルテンフリ
ー）の本格タコス専門店
※完全キャッシュレス店舗



ゼストキャンティーナ代官山

【住所】東京都渋谷区代官山町16-2
八幡ビル1F・B1F
【席数】1F 38席、B1F 30 席
【業態】テックス・メックス料理
※テラス席はペット同伴可



カフェ ラ・ボエム ペントハウス

【住所】東京都港区白金台4-19-17 3F
【席数】50席
【業態】カジュアルイタリアン
アフタヌーンティー

2022年の振り返り

●外部環境が急激に変化

- オミクロン株による感染急拡大で国内飲食店への営業自粛要請再発（2022/1/21~3/21）
- エネルギー価格高騰、急激な円安、物価上昇
- 日本では10月水際対策大幅緩和（入国者総数上限撤廃等）によるインバウンドの急回復

●国内の取り組み

- 企業理念を改定
- サービスの強化
 - ✓ 年2回のサービスコンテストでホスピタリティある人材の発掘と育成を推進
 - ✓ 店長会議や全店向けにサービス動画を配信、指導のバラツキを無くし、レベル底上げへ
 - ✓ 店舗単位でのサービス講習会の実施と査察、映像での共有
- 業務の標準化・定例化・デジタル化の強力な推進
- 原材料高騰への対応
- 徹底したコスト管理
- 新業態の収益化

●米国の取り組み

- 4月1日付にて子会社COOがCEOに昇格（当社取締役兼務者）
- 自治体によるコロナ支援策「屋外営業の一時許可」の期限延長交渉
 - ✓ 段階的に延長され、2022年12月末まで屋外営業が可能に
 - ✓ 「ラ・ボエム」は自社敷地内のため、恒久的な屋外営業許可の取り付けを同時進行で継続
 - ✓ 「1212 (twelve twelve)」はプロムナードの利用規制がかかり、営業戦略の見直しを図る
- 今後の成長のための新店出店を準備（Downtown LAの中心部）

2022年通期 国内業態別業績

2022年12月期 通期	合計	ラ・ボエム	ゼスト	モンスーン	権八	Dinner&LB	FC	その他	本部 販管費
売上高	7,542	2,444	323	1,641	1,919	860	147	204	-
営業利益	137	283	▲23	154	317	55	12	▲2	▲659
営業利益率	1.8%	11.6%	▲7.4%	9.4%	16.5%	6.4%	8.6%	▲1.4%	0.0%
期末店舗数	44	16	5	9	7	4	1	2	-
2021年12月期 通期	合計	ラ・ボエム	ゼスト	モンスーン	権八	Dinner&LB	FC	その他	本部 販管費
売上高	7,966	2,620	159	1,740	2,107	1,015	125	197	-
営業利益	593	460	▲21	202	451	130	8	8	▲646
営業利益率	7.5%	17.6%	▲13.3%	11.7%	21.4%	12.8%	6.8%	4.2%	0.0%
期末店舗数	43	15	3	9	7	6	1	2	-
2019年12月期 通期	合計	ラ・ボエム	ゼスト	モンスーン	権八	Dinner&LB	FC	その他	本部 販管費
売上高	9,116	2,427	319	2,192	2,870	720	206	380	-
営業利益	150	256	▲35	195	475	▲49	38	▲51	▲679
営業利益率	1.7%	10.6%	▲11.2%	8.9%	16.6%	▲6.8%	18.8%	▲13.5%	0.0%
期末店舗数	47	13	3	10	8	7	1	5	-

(単位：百万円)

- 【ラ・ボエム】路面店は競合増加で好調だった前年と比較すると減収減益だが、2019年対比では店舗数増により増収増益と健闘
- 【ゼスト・タコファナティコ】出店と業態変更で前年比店舗数増により増収、出店費用と立上げ苦戦で減益だが利益率のマイナスは縮小
- 【モンスーン】大型商業施設内店舗が回復傾向にあるが、以前の人流規模には至らず前年比減収減益、2019年比では利益率は改善
- 【権八】競合増加で前年対比も2019年比も減収減益、10月以降インバウンド需要が急伸し利益率は2019年程度まで回復
- 【Dinner & LB】業態変更店舗の立ち上げ苦戦を『カフェ レガート』や『リグニス』が安定した業績で黒字維持に貢献
- 【FC】3月までの施設の営業自粛により苦戦するも、4月以降に旅行需要回復により増収増益

※Dinner&LB：「タブローズ」「タブローズラウンジ」「カフェ レガート」「ステラート サパークラブ（2022年8月閉店）」「リグニス」「LB（2022年4月閉店）」
 ※FC＝フードコロシアム（那須）
 ※その他：「デカダンス ドュ ショコラ」「パルティザン ブレッド ファクトリー」の他、ウエディングサロンの売上高が含まれます。
 ※「タコファナティコ」の業績はゼストに含まれております。

2022年通期 海外（米国）店舗別業績

2022年12月期 通期	合計
売上高	15,191
営業利益	660
営業利益率	4.3%

La Boheme	1212 (twelve twelve)	本部 販管費
5,959	9,231	0
964	1,449	▲1,754
16.2%	15.7%	-

2021年12月期 通期	合計
売上高	13,970
営業利益	1,161
営業利益率	8.3%

La Boheme	1212 (twelve twelve)	本部 販管費
5,091	8,878	0
898	1,723	▲1,460
17.7%	19.4%	-

2019年12月期 通期	合計
売上高	4,507
営業利益	▲1,011
営業利益率	▲22.4%

La Boheme	1212 (twelve twelve)	本部 販管費
984	3,523	0
▲327	▲96	▲588
▲33.2%	▲2.7%	-

(単位：千USドル)

- ・両店とも屋外営業とDJ・ライブミュージック等のナイトクラブ営業の人气が定着
- ・下期に競合等の出現や米国景気減速によって上期の勢いは失速したが、米国全体は前年比8.7%(\$)の増収
- ・『La Boheme』は前年比増収増益と好調を維持
- ・『1212』はバンドやパフォーマーなどエンターテインメント強化費用等のコストアップで増収減益
- ・新店準備、本部スタッフ増員による人件費増加で米国全体は前年比減益だが、営業利益率4.3%と健闘
- ・急激な円安で連結業績へのインパクト大（円ベースでは前年比25.5%の増収となる）

IV. 2023年の取り組み

■ パーパス PURPOSE (存在意義)

世界に喜びと健康を

■ ミッション MISSION (果たす役割・使命)

世界中のあらゆるお客様に感動して頂き、
社員も感動するための最高の舞台を提供する

■ バリュー VALUE (大切にする価値観)

フェア&オープン	(個の尊重と徹底した情報公開による組織運営をしよう)
本物志向	(料理・サービス・空間の品質を追求しよう)
革新性と創造性	(現状に満足せず常にチャレンジし、新しい価値を生み出そう)
健康増進	(健康的な食の提供&環境づくりや健康習慣を定着させよう)

国内（当社）

– 2022年の取り組みを継続

- ✓ サービス強化、業務標準化・デジタル化の推進
- ✓ 新業態・小型店の収益化の確立
- ✓ 原材料高騰への対応と徹底したコスト管理

– 人材発掘・育成プログラムの体系化

- ✓ 店長・料理長の二番手（アシスタントマネージャー等）を対象とした研修会や料理講習会の復活
- ✓ 海外研修プログラムの再開（将来の幹部候補者を対象とした米国店舗研修・視察）

– 人事制度の改革

- ✓ 長時間労働の改善に向けた職制・権限・待遇など当社独自の人事制度を改革

– 新店・新業態・宿泊&飲食複合施設等、新しいマーケットの開拓

- ✓ “稼げるパッケージ”として確立できるよう調査・研究を徹底

– 出退店

- ✓ 現時点での新規出店計画は無し
- ✓ 2月28日をもって『カフェ ラ・ボエム名古屋則武新町』を閉店

米国（子会社）

- コロナ禍の支援策終了を受け営業戦略の見直しを図る

- ✓ 『ラ・ボエム』は恒久的な屋外営業許可に向けた改装実施を計画（現在駐車場にて稼働中）
- ✓ 『1 2 1 2』はプロムナード利用規制のため屋外営業規模が大幅縮小
 - 屋外は店舗前のテラスのみ（コロナ前の広さに）
 - 屋外営業にかかる費用（テーブルセッティング・撤収・清掃人件費）の削減
 - 店内のナイトクラブ等エンターテインメント営業強化へ
- ✓ エンターテインメント営業にかかる費用の適正化
- ✓ コロナ禍で延期されていた団体イベントニーズの取り込みを強化

- Downtown LA の新店開業

- ✓ 年内オープン予定（イタリアン業態）
- ✓ 広く美しいパティオを活かした店舗造り（アウトドア、エンターテインメント等）



施工イメージ（店内からみたパティオ）



『ラ・ボエム』（ウエストハリウッド）が
“2023年 全米で最もロマンチックなレストラン100店”
“2023年 カリフォルニア州で最もロマンチックなレストランTOP7”
に選ばれました！

「OpenTable」という全米をカバーするレストラン予約サイトのクチコミにおいて、2022年に書き込まれた1,300 万件を超えるレビューを分析して作成された、“全米でもっともロマンチックなレストラン100店”に、子会社が運営する『ラ・ボエム』が選ばれました！そして、カリフォルニア州ではTOP7に入りました！

La Boheme listed as one of 100 Most Romantic Restaurants in the US in 2023
<https://www.opentable.com/lists/most-romantic-restaurants-us-2023>

La Boheme West Hollywood
<https://labohemeweho.com/>



店内



駐車場を利用したアウトドアダイニング

參考資料

展開コンセプト (連結)

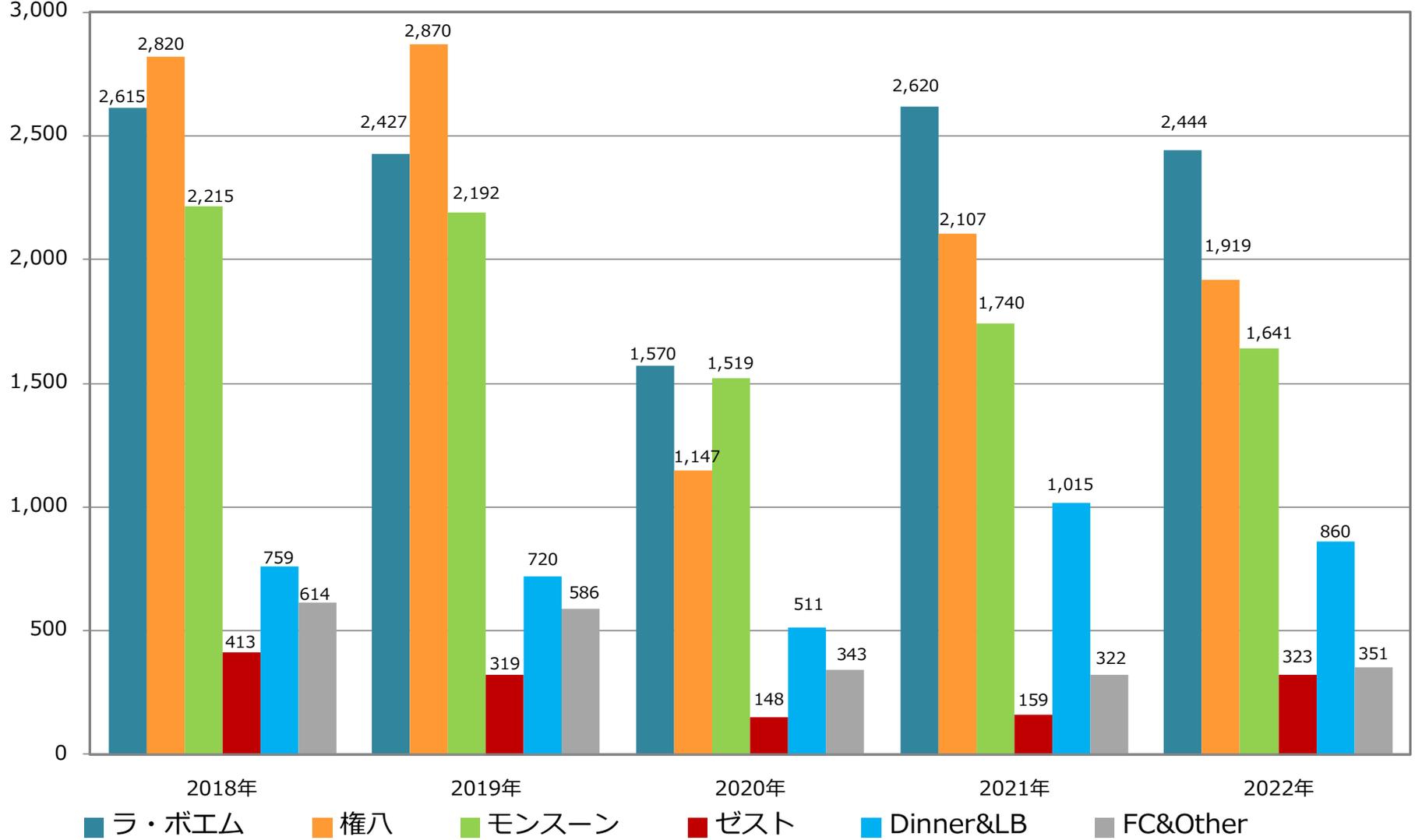
計46店舗 (2022.12月末)

カフェ ラ・ボエム	権 八	モンスーン カフェ	ゼスト キャンディーナ	ディナー店	※ F C ・ その他 業 態
   イタリアン 16店舗	   創作和食 & 寿司 7店舗	   エスニック 9店舗	   テックスメックス 5店舗	 海外 (米国)    5店舗	 海外 (米国) 1212   4店舗
※ 2,444百万円	1,919百万円	1,641百万円	323百万円	1,651百万円	1,576百万円
※ 26%	20%	17%	3%	17%	17%

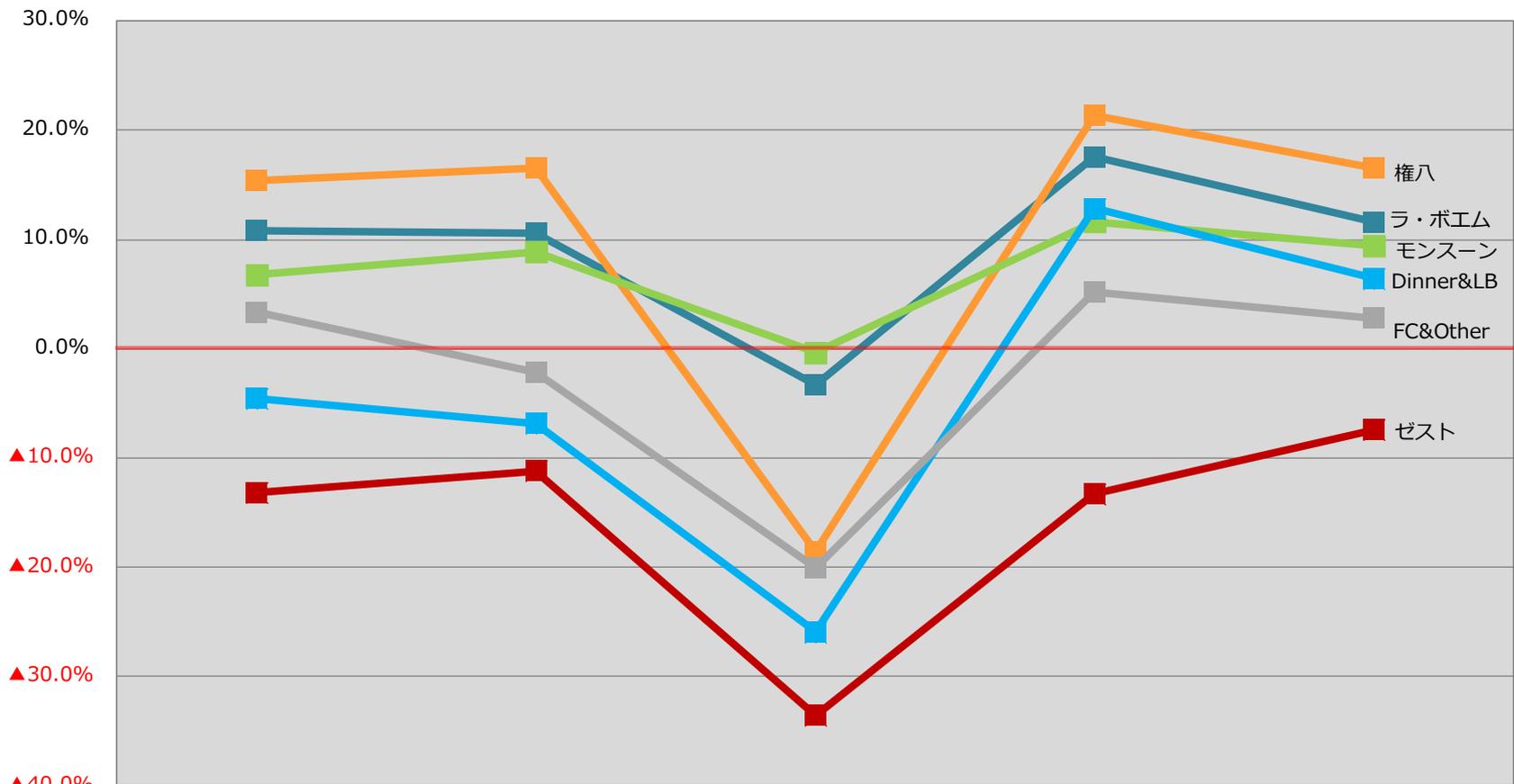
※上記金額 & シェアは、2022年12月期の連結売上高とそのシェア (%) を記載しております。
 ※コンセプトの「F C」は、「FOOD COLOSSEUM (フードコート業態)」の略です。
 ※『L B』 (ディナー店) は2022年4月22日より『ゼストキャンディーナ代官山』に業態変更しております。
 ※『ステラート サパークラブ』 (ディナー店) は2022年9月1日より『カフェ ラ・ボエム ペントハウス』に業態変更しております。

国内コンセプト別 売上高の推移

(単位：百万円)



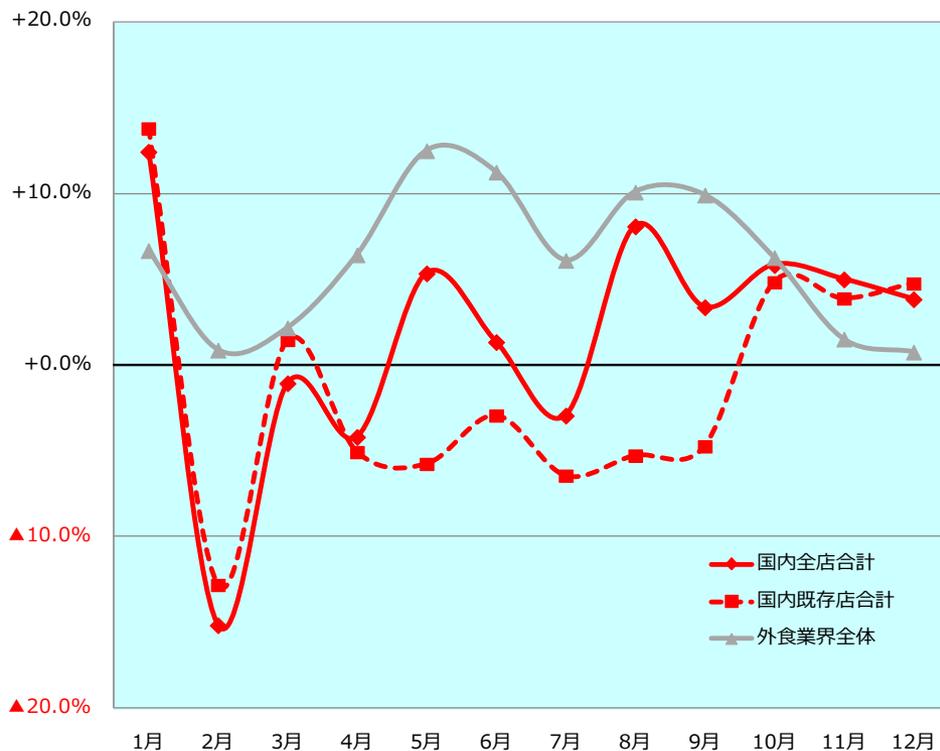
国内コンセプト別 営業利益率の推移



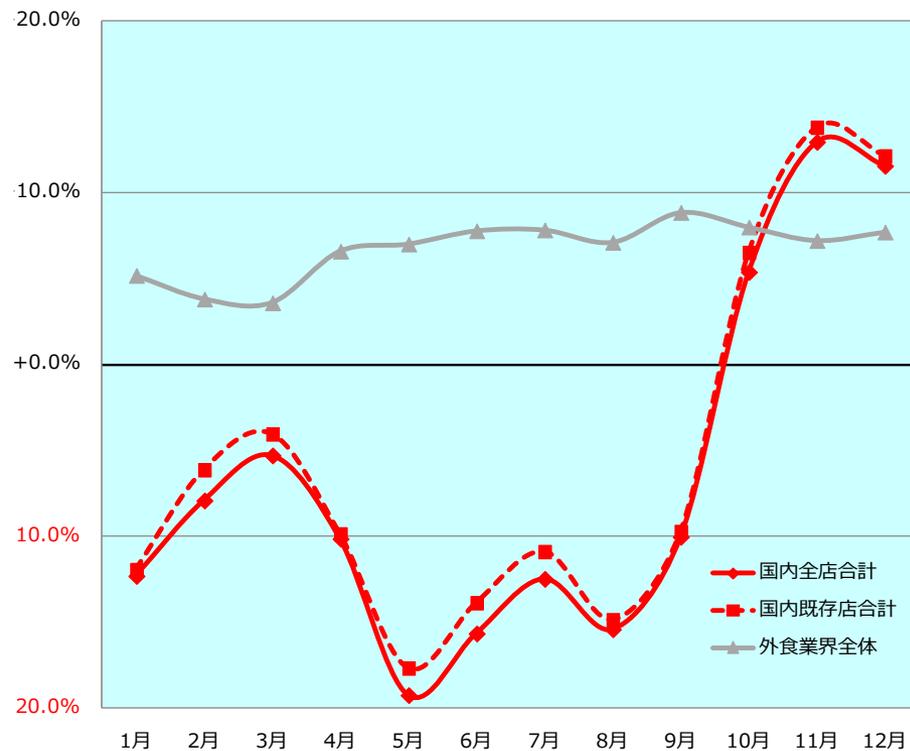
	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
ラ・ボエム	10.8%	10.6%	▲3.3%	17.6%	11.6%
権八	15.4%	16.6%	▲18.6%	21.4%	16.5%
モンスーン	6.8%	8.9%	▲0.4%	11.7%	9.4%
ゼスト	▲13.2%	▲11.2%	▲33.5%	▲13.3%	▲7.4%
Dinner&LB	▲4.6%	▲6.8%	▲26.0%	12.8%	6.4%
FC&Other	3.3%	▲2.1%	▲20.1%	5.2%	2.8%

2022年通期 (国内) 客数と客単価の前年同期比推移

客数



客単価



2022年12月期 通期
 全店 **+1.7%** 既存店 **▲2.7%**

2022年12月期 通期
 全店 **▲6.9%** 既存店 **▲6.9%**

※業界全体の数値は、一般社団法人日本フードサービス協会のデータを参考にしております。

損益計算書概要 (国内)

2022年12月期 通期	合計	ラ・ボエム	ゼスト	モンスーン	権八	Dinner&LB	FC	その他	本部 販管費
売上高	7,542	2,444	323	1,641	1,919	860	147	204	-
売上原価	6,665	2,119	337	1,458	1,572	791	129	206	50
売上総利益	876	325	▲13	183	347	69	17	▲1	▲50
販管費	739	42	9	28	29	13	4	1	608
営業利益	137	283	▲23	154	317	55	12	▲2	▲659
営業利益率	1.8%	11.6%	▲7.4%	9.4%	16.5%	6.4%	8.6%	▲1.4%	0.0%
期末店舗数	44	16	5	9	7	4	1	2	-
2021年12月期 通期	合計	ラ・ボエム	ゼスト	モンスーン	権八	Dinner&LB	FC	その他	本部 販管費
売上高	7,966	2,620	159	1,740	2,107	1,015	125	197	-
売上原価	6,603	2,108	170	1,502	1,620	868	114	187	31
売上総利益	1,362	511	▲11	238	486	147	10	10	▲31
販管費	769	51	9	35	35	17	2	1	615
営業利益	593	460	▲21	202	451	130	8	8	▲646
営業利益率	7.5%	17.6%	▲13.3%	11.7%	21.4%	12.8%	6.8%	4.2%	0.0%
期末店舗数	43	15	3	9	7	6	1	2	-
2019年12月期 通期	合計	ラ・ボエム	ゼスト	モンスーン	権八	Dinner&LB	FC	その他	本部 販管費
売上高	9,116	2,427	319	2,192	2,870	720	206	380	-
売上原価	8,087	2,132	347	1,955	2,354	747	164	426	▲38
売上総利益	1,028	295	▲27	237	515	▲26	42	▲46	38
販管費	878	38	8	41	39	22	3	5	718
営業利益	150	256	▲35	195	475	▲49	38	▲51	▲679
営業利益率	1.7%	10.6%	▲11.2%	8.9%	16.6%	▲6.8%	18.8%	▲13.5%	0.0%
期末店舗数	47	13	3	10	8	7	1	5	-

(単位：百万円)

※Dinner&LB：「タブローズ」「タブローズラウンジ」「カフェレガート」「リグニス」「ステラート サパークラブ（2022年8月閉店）」「LB（2022年4月閉店）」

※FC＝フードコロシアム（那須）

※その他：「デカダンスデュショコラ」「バルティザンブレッドファクトリー」の他、ウエディングサロンの売上高が含まれます。

※「タコファナティコ」の業績はゼストに含まれております。

損益計算書概要 (米国連結子会社)

2022年12月期 通期	合計	La Boheme	1212 (twelve twelve)	本部 販管費
売上高	15,191	5,959	9,231	0
売上原価	12,776	4,994	7,781	0
売上総利益	2,414	964	1,449	0
販管費	1,754	0	0	1,754
営業利益	660	964	1,449	▲1,754
営業利益率	4.3%	16.2%	15.7%	-

2021年12月期 通期	合計	La Boheme	1212 (twelve twelve)	本部 販管費
売上高	13,970	5,091	8,878	0
売上原価	11,347	4,192	7,155	0
売上総利益	2,622	898	1,723	0
販管費	1,460	0	0	1,460
営業利益	1,161	898	1,723	▲1,460
営業利益率	8.3%	17.7%	19.4%	-

2019年12月期 通期	合計	La Boheme	1212 (twelve twelve)	本部 販管費
売上高	4,507	984	3,523	0
売上原価	4,931	1,311	3,619	0
売上総利益	▲423	▲327	▲96	0
販管費	588	0	0	588
営業利益	▲1,011	▲327	▲96	▲588
営業利益率	▲22.4%	▲33.2%	▲2.7%	-

(単位：千USドル)

※上記は業績管理用の決算整理前数値です。

2022年12月期 通期 赤字店舗一覧

	店舗名	2022年 通期		備考
		売上高	営業利益 (販管費配賦前)	
1	ステラート サパークラブ (白金台)	50,419	▲34,822	業態変更 (9/1)
	カフェ ラ・ボエム ペントハウス (白金台) ※業態変更後	28,355	▲7,696	
2	ブラッスリー タブローズ (代官山)	78,967	▲29,130	
3	ラ・ボエム パスタフレスカ 名古屋則武新町	32,264	▲18,807	※
4	タコ ファナティコ 渋谷	47,161	▲10,456	新店(2/1)
5	ゼスト キャンティーナ お台場	89,113	▲9,803	※
6	LB8 (代官山)	21,660	▲2,455	業態変更 (4/22)
	ゼスト キャンティーナ 代官山 ※業態変更後	54,998	▲6,434	
7	バルティザン ブレッドファクトリー (南青山)	27,503	▲8,417	
8	ウェディングサロン	47,354	▲7,251	
9	ラ・ボエム パスタフレスカ RAYARD Hisaya-odori Park (名古屋)	53,010	▲7,187	※
10	タコ ファナティコ RAYARD Hisaya-odori Park (名古屋)	74,142	▲6,989	※
11	権八 NORI-TEMAKI 原宿	59,849	▲4,659	
12	モンズーンカフェ ららぽーと愛知東郷	55,021	▲4,423	※

(単位：千円)

※商業施設店舗につきましては、まん延防止等重点措置下において、
施設側の方針により営業時間短縮および酒類提供停止等を実施しておりました。

注意事項

- ・本資料は情報提供を目的としており、当社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。
- ・本資料における将来に関する事項は、本資料の発表日現在において入手可能な情報および業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日における仮定を前提としております。
- ・本資料の全部または一部の無断複製や転用等をご遠慮ください。

Disclaimer

- ・ This document is intended to provide information of our company only. This information is not intended to solicit buying or selling our company's stock.
- ・ This document contains forward-looking statements which represent the company's expectations or beliefs concerning future events. The company's actual results could differ materially from those stated or implied in the forward-looking statements herein.
- ・ Please refrain from replicating or diverting this document without prior approval from Global-Dining, Inc.



<資料に関するお問い合わせ>
総務管理グループ
050-5444-9868
stock@global-dining.com